

令和7年度病虫害発生予察特殊報第1号

令和7年8月5日
静岡県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 和名：ワタミヒゲナガゾウムシ
 学名：*Araecerus fasciculatus* (DeGeer) [= *Araecerus coffeae* (Fabricius)]
- 2 発生作物 温州みかん（施設栽培）
- 3 発生経過
 - (1) 令和7年7月に静岡県西部地域の温州みかん（施設栽培）（すなわち「ハウスみかん」）において、収穫前の果実が早期着色し、樹上から落下する被害が発生した（図1）。樹上の腐敗果や落果には虫が寄生していた（図2）。
 - (2) 本虫の同定を農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に依頼した結果、ワタミヒゲナガゾウムシであることが判明した（図3）。
 - (3) 本種の発生は県西部地域における一部のハウスみかん園のみで確認されている。なお、国内では露地みかんでの直接的な被害は確認されていない。
- 4 特徴
 - (1) 分布
海外では、熱帯・亜熱帯地方を中心に広く世界に分布している。
国内では、本州、四国、九州及び沖縄に分布している。ハウスみかんでは、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、愛媛県、香川県、高知県、和歌山県、徳島県など本県を含む計10県において被害が確認されている。
 - (2) 寄主植物
国内では、ハウスみかん、にんにくでの被害が報告されている。また、海外では、かんきつ類、にんにくその他、アボカド、落花生、ワタ、コーヒー、カカオ、サツマイモ、サトウキビ、ジャガイモ、トウモロコシなどの各種作物への被害が報告されている。
 - (3) 形態
成虫は、体長3～5mm程度で暗～黒褐色のまだら模様を呈し、素早く飛翔する（図3）。幼虫は、体長1.5～5.5mm程度で白色のイモムシ状であるが脚はない。蛹は体長4.5mmで乳白色、卵は0.3～0.5mmで光沢のある白色鶏卵形である。
 - (4) 被害
温州みかんでは、本種が生理落果や摘果後の果実に産卵して増殖後、果皮に2～3mmの穴を開けて羽化し（図4）、樹上の健全果実にも産卵する。その後、ふ化幼虫は果実を加害し、早期着色や落果を招く。
- 5 防除対策
 - (1) 令和7年7月現在、登録農薬はテルスター水和剤（希釈倍数：1000倍、使用時期：収穫前日まで）のみであり、成虫発生期に散布する。
 - (2) 生理落果や摘果後の果実は発生源となるので（図5）、袋への密封や園外で埋設する等、適切な除去を徹底する。



図1 樹上から落下した果実



図2 腐敗果に寄生する
ワタミヒゲナガゾウムシ



図3 ワタミヒゲナガゾウムシ成虫



図4 摘果におけるワタミヒゲ
ナガゾウムシ成虫の脱出孔



図5 ワタミヒゲナガゾウムシの
発生源となる生理落果や摘果

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

